

# Kadan 倶楽部 快適住まい通信

## vol.13

(タイトル)

### 50代からの暮らし創造。 土間で外に開くマンション



皆さま、こんにちは。

一級建築士の三上紀子です。

今回は50代で住まいの見直しを行い、

新しいライフスタイルを築いたリフォームをご紹介します。

(本文)

## 高齢の親に寄り添って住む

50代は子どもが独立していったり、定年や親の介護が視野に入ってくる時期です。家族や社会的環境が大きく変化し、これまでの暮らし方や住まいを見直して、これから先を見据えた新たな環境づくりが必要になるとき。住まいを考える上での、いわばターニングポイントと言えるのかも知れません。

と言っても、かつてのような老後のための準備というより、これからの暮らしを積極的に楽しむための新たな環境整備と捉えるのが、今の50代。そんな考え方も暮らし方もアクティブで個性的な人たちに、マンションリフォームは様々な可能性を提供しています。

ここでご紹介するのは、50代後半・女性二人住まいのマンションリフォームです。仕事を持ち、第一線でキャリアを積んできた女性が、高齢のご両親のそばに住んで安心して仕事が継続できる近居を選択。ご両親の住むマンションの同じ階に売りに出していた中古住戸を従姉妹と共同で購入し、リフォームして住むことにしました。

築25年の住戸は設備が老朽化し、間取りも小部屋が並ぶファミリータイプの3LDKと、働く女性の二人住まいという現代的な住まい方には適さないものでした。そこで、構造のコンクリートスラブを残して内装・設備を全て取り払い、新たに間取りを作り直すスケルトンリフォームで二人住まいにふさわしい空間をつくることにしました。

## 女性二人住まいの現代的なワンルーム

プランニングに当たって浮かび上がったライフスタイルは、「平日は仕事で忙しく、家には寝に帰るくらい。休日となる週末は、家でくつろいだり、友人を招いて食事会やパーティを楽しむ。同階のご両親も普段からちょくちょく出入りする。」というものでした。

66㎡の限られたスペースに必要な要素を落とし込みつつ、できる限り広さを感じられる空間にするため導き出した答えが、家の真ん中に大きなワンルームのLDKを取る間取り。水まわりと納戸以外は間仕切りをなくし、バルコニーに面して間口いっぱい広い空間を確保しました。ベッドはリビングの一角に置き、開閉引戸で寝るとき以外は開け放して使えるようにしました。

インテリアは、仕事の疲れを癒すやすらぎと温かさがテーマ。和紙や無垢の木材な



ワンルームのLDK。格子建具、花梨無垢材フローリング、ケナフ壁紙、畳、美濃和紙照明器具など、自然素材を活用し和モダン空間をつくりました。

右手格子戸の陰がベッドコーナー。壁面に沿って縦に二人分のベッド置き場を設け、引き戸で開閉します。

どの天然素材を活かした和のテイストを大切にしながら、モダンなライフスタイルを反映したデザインを目指しました。



オーダーキッチンには長さ4mのカウントertop。週末は親しい友人達が集まって一緒にキッチンに立ち、ワイワイ過ごせるフルオープンスタイルです。



玄関ホール～廊下。風の通り道ともなる廊下には、たくさんの蔵書を収める本棚を設けました。

## 住まいを外に開く土間のある玄関

最も特徴的なのは、土間のある大きな玄関です。玄関と玄関脇の一室をまとめて一体空間とし、靴のまま入れる土間仕上げにして接客&SOHOスペースとしました。ここに、隣近所の人や両親など親しい人たちが出入りしておしゃべりできる空間をつくりたいと考えたからです。また、将来自分たちが自宅で仕事をするようになって、玄関と一体のワークスペースがあれば、仕事も接客もここで対応できます。

お手本は、京都の町家。仕事場と住居を兼ねた建物では、

「通り庭」という家の内と外をつなぐ土間空間が家の中を走っていて、お客様や近所の人などが出入りして豊かなコミュニケーションの場となっています。そんな空間のイメージをマンションに取り入れました。

昭和50年代に建てられたこのマンションは、住環境に恵まれ、管理組合の活動も盛んで、住民同士の良きコミュニティが育っていたため、その環境を活かせる家にしたいと考えたのです。

実際に工事中にも近所の方が何かと声を掛けてくださり、住民の方々ともゆるやかな交流を持つことができました。「この玄関スペースに立ち寄ってくださる近所の方も多し」とは、住んでみてのお二人の感想。これからのマンションは、住まいの内側だけでなく外に開くことを考えた間取りが求められるようになるのではないかと感じました。

\* \* \* \* \*

キャリアを重ねた大人の女性が見せてくれた、セカンドライフの入口での決断。設計者の立場からも学ぶことが数々ありました。このプラン、女性二人のための空間ではありますが、ヤングやシニアのカップルにも良いし、介護用にもなり、転売も可能です。将来の様々な可能性を内包しつつ、新しいライフスタイルを生み出した今回の住まいづくり。リフォームによるマンションの空間活用の広がりを変えて教えてくれました。



土間とベンチのある玄関。続く右側は接客&SOHOスペース。ワークテーブル、パソコンとLAN設備を設置しました。窓や頭上の空調スペースには格子のモチーフを用い、和の雰囲気。

## Profile

三上紀子(みかみ のりこ)

一級建築士、「レジオン・コンサバティブ (株)」代表取締役。

大阪市立大学生活科学部住居学科卒業、東京大学大学院修士課程修了。

「住む人の心理や行動・個性やライフスタイルにあった住まいを 1 軒 1 軒でいねいに創ること」を信条に戸建、マンションなどの住宅設計、インテリアデザインを幅広く手がける。

住まいづくりの相談申込は HP より受け付けている。

〒113-0022 東京都 文京区千駄木 3-29-11 フォレストイン千駄木 1F

TEL 03 - 3828 - 5389

<http://www.Legion.co.jp>